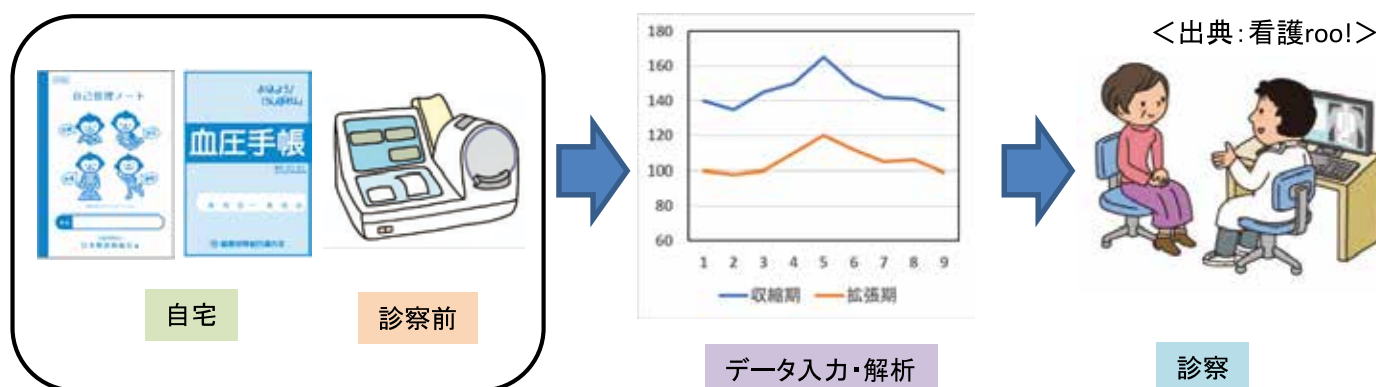


テーマ：診察前のデータ入力手続きを簡略化したい

■ 背景

糖尿病や高血圧患者さんは、日々自宅で血圧、体重、歩数、血糖値などを測定し、自己管理ノートに記録している。外来で受診する際にそのノートの内容を確認するのだが、人によっては書いてある数字が読めないケースがある。

外来受診では、診察前に病院の機器でそれらの項目を測定して、診察時にそのデータを医師へ手渡しする。医師は内容を確認した上で、電子カルテへ入力・診察を開始している。



■ 希望する解決策

「患者さんが診察室へ入室した時には測定結果及び経時変化データが手元にあるようにしたい」。医師はそのデータを基に治療方針を考え、決めていく。

もしこれが達成できた場合には、速やかに診察が始められ、以下の効果が期待できる。

- ① 診察・看護に効率的に時間を振り分けることが可能となる。
- ② 外来患者さんの診察待ち時間を短縮できる。
- ③ 医薬品を変更した際には有効性を判定しやすい。
- ④ 診察時間の短縮に伴い医療従事者の働き方改革につながる。

■ 市場性

我が国では糖尿病患者は690万人、高血圧患者は990万人と報告されている。題記課題は多くの医療機関が抱えていると思われるため、課題が解決されると大きな市場機会があると推定される。

課題解決に向けたアイデアはありますので、私たちと協働で解決策を具現化して下さる企業を求めています。

■ 臨床看護学講座成人看護学ホームページ

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqahn/>